

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3870105750
法人名	有限会社イヨメディカル
事業所名	グループホームみゆき2
所在地	松山市北斎院町947 - 1
自己評価作成日	平成27年5月1日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成27年5月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

散歩を日課とし、悪天候以外はほぼ毎日戸外にでている。その際にも近隣住民と挨拶や会話をすることで、利用者が地域の一員としてホームの生活を送ることが出来る様に努めている。利用者が馴染になった方々と、花や野菜の話をし、近隣の皆さんが日々来て下さって一緒に世話をして下さる。又、充実した毎日を送る事が出来る様に、日頃から利用者と密に関わりを持ち、利用者の希望や要望を具現化していけるように努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

玄関前のプランターには季節に応じて花を植え、地域の方や利用者と一緒に手入れしている。散歩の行き帰りにひと休みできるように、テーブルセットも置いている。プランターでネギやサニーレタス、ゴーヤを植えて調理に使用したり、夏場は、居室の窓にゴーヤカーテンを作って日よけにしている。
日常的に、近くの川沿いを散歩しており、鯉にエサをやったり、鶯の飛来等も利用者の楽しみになっている。季節に応じて、初詣やお花見に出かけたり、利用者の「紅葉がきれいじゃろうな」という一言が出かけるきっかけになることもある。ファミレスで外食したり、カラオケが好きな方は、近所にあるカラオケ喫茶で軽食を食べながら歌を楽しむ機会を作っている。洋服やおやつを買いに行く際には、ゆっくり選べるように時間に余裕を持って出かけるようにしている。
薬の効果や副作用等、看護師を中心に職員全員で情報を共有して知識を深めており、すべての職員が説明できるようにしている。

・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11,12)
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目：28)		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名 有限会社 イヨメディカル

(ユニット名) グループホーム みゆき2 (1F)

記入者(管理者)

氏名 松本 カホル

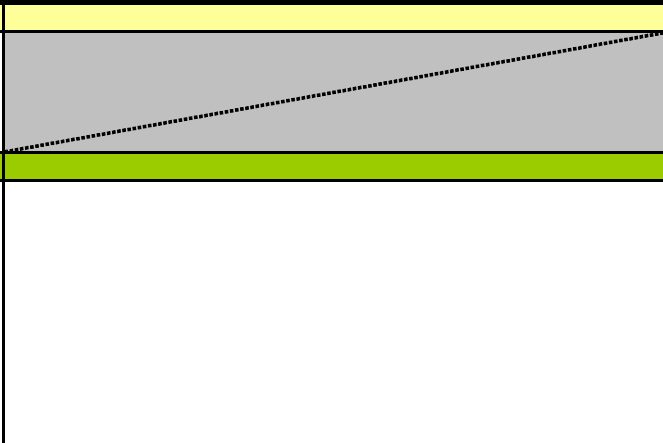
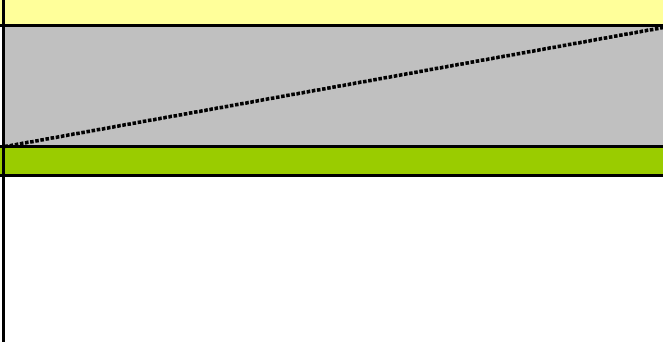
評価完了日

H 27 年 5 月 1 日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 全職員・来訪者が見える場に理念を掲示し、又、ミーティングの時に全員で唱和するなどして、介護業務をする上での基本姿勢として、それを共有し、実践につなぐ努力をしている。 (外部評価) 系列グループホームと同じ理念、方針、家訓を掲げて取り組んでいる。又、家訓をもとに、「笑顔で！優しく！親切に！」と目標を立て、居間や階段、スタッフルーム等に掲示している。法人代表者や管理者は、ミーティングや日々の業務の中で家訓や目標について繰り返し話し、職員を導いている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 地域行事への参加、ホーム行事への案内(夏まつり)、運営推進会議、回覧板、ゴミ出し場所清掃、散歩時交流、町内会費、地域の商業施設の利用、河川敷の除草、地域社会資源の協力依頼等を通して地域とのつきあいを深めていくよう努めている。 (外部評価) 散歩や行事等の交流で親しくなった地域の方々が、野菜や果物を差し入れてくれたり、プランターの花の手入れや花を活けてくれたりする。職員は、昔の夏祭りを懐かしむ利用者の声を聞き、昨夏、初めて地域の方やご家族を招待して夏祭りを開催した。利用者に出店を提案してもらったり、飾り付け等も一緒に行い楽しまれた。当日、利用者は、地域の子ども達と一緒にヨーヨー釣りや金魚すくいをしたり、盆踊り等して交流された。秋祭りには、神輿が来てくれたり、12月には、地域のしめ飾り作りに参加できるよう支援している。管理者は、地域に溶け込んだ事業所作りを目指して、今後は、「まもるくんの家」の登録を行ったり、地域住民を職員に採用する等、積極的に取り組みたいと考えていた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 運営推進会議などの機会を通して、近況報告や具体的事例の発表をしたり、今、社会で問題になっているテーマを取り上げたり、ホームの行事等に参加していただいたり、散歩時の交流をしたりする中で、認知症に対する理解を深めてもらっている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価) どのような意見も真摯に受け止め、前向きに取り組むように努めている。認知症の人に対する理解を深めてもらうよい機会にもなっている。</p> <p>(外部評価) 会議には、町内会長、民生委員、地域住民をはじめ高齢者見守隊、ご家族、社会福祉協議会の担当者等が参加している。毎回、事業所から利用状況や行事報告を行い、その時々に必要なことをテーマに挙げて、相談や意見交換している。今年度は、避難訓練・AED講習・認知症の勉強会を行ったり、会議と夏祭りを同一日に開催し、利用者の生活の様子を見てもらう機会も設けた。町内会長や民生委員には、事業所の新しい菜園探しや地域の草引き、花壇作りについて相談し、地域ならではの情報を教えてもらい、活動をすすめられるようアドバイスをいただいた。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 担当者の方には運営推進会議に参加していただき、情報交換をしたり、指導をしていただいたりしている。</p> <p>(外部評価) 市の介護保険課や地域包括支援センターの担当者が運営推進会議に参加している。介護保険課からは、時期によって熱中症や感染症の注意喚起や市民大清掃の案内がある。地域包括支援センターからは、研修案内があったり、時には、運営推進会議のメンバーについて相談することもある。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) センサーマットを活用して、転倒や転落の防止に努めると共に、目配り、気配りを怠らず、できるだけ身体拘束をしない方向でケアに取り組んでいる。又、昨年の外部評価後出入口のドアを透明ガラスにし、玄関の目隠しシールを取り除き、利用者の様子が見えるようにして、可能な限り解錠に向けて取り組んでいる。</p> <p>(外部評価) 日中玄関は開放している。入居間もない時期に、ひとりで出かけて行方不明になった利用者もあったが、徘徊SOSネットワークや警察、地域の方にも協力を得て捜索し、早期に無事発見できたことがあった。その後、再発防止について話し合っており、ご本人のお好きなカラオケや外出等を楽しめるよう支援することで現在は、生活が落ち着いている。複数の利用者にベッド柵や車いすのベルトを使用していたが、職員で話し合い、ベッド柵については、職員の訪室回数を増やし、柵を外す時間を設け、今後は、畳を使用することも検討している。車いすのベルトについては、職員の見守り体制を整備して、ベルトを外して過ごす時間を少しずつ増やしていけるよう取り組んでいるところである。取り組み内容については、運営推進会議でも報告している。</p>	<p>利用者が自由に安全に暮らせる事業所作りを目指して、利用者の立場に立ち、環境整備に取り組まれてほしい。グループホームの意義や特性等とも照らし合わせ、ご家族とも相談しながら今後もケアの工夫を重ねていかれてほしい。</p>

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 利用者が安心して、穏やかに過ごしていただけるような環境づくりに日頃から努めており、特に職員の言動については相互に注意を払っている。外部・内部研修にも多くの職員の参加の方向で努力している。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 今後、勉強会などで、取り上げて、学びの機会を持てるよう努力したい。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 利用者・家族に安心して利用していただけるよう、いかなる疑問や不安に対しても、納得していただくまで丁寧に説明し、誠心誠意対応している。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 運営推進会議、家族会、行事への参加の際、面会時、電話、意見箱、介護記録、金銭出納帳の閲覧等でコミュニケーションを取りながら、意見や要望に耳を傾け、真摯に対応している。 (外部評価) ご家族には、毎月の書類送付時と運営推進会議案内時に、写真を同封して日々の様子を知らせている。事業所便りは、年2回発行している。ご家族来訪時には、日々の介護記録や金銭出納帳、健康状態の記録等を必要に応じて確認してもらっている。事業所の夏祭り時に実施した「家族会」では、自己紹介後に外部評価結果について報告した。ご家族からは、「お世話になっている」「お任せします」「希望はその都度言います」等の言葉があった。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 業務マニュアルを作成し、その中で役割分担や利用者の担当を決めたりして、責任を持って業務に取り組んでもらうことを通して、職員自らが、課題や問題点を見つけ、小集団や大集団(会議)の場で、話し合い、解決策を確認し合っ、介護現場での実践につながるよう努めている。	
			(外部評価) 月1回の職員ミーティングには、毎回法人代表者も参加しており、意見がダイレクトに届き検討できる機会となっている。職員からの提案で、不十分な個所を掃除する日を決めたり、毎回食前に口腔体操を行うようになった。職員から外部研修受講の希望があれば、受講できるよう勤務調整しており、研修参加後は、ミーティングで周知し、運営推進会議でも報告している。研修に参加した職員の報告をもとに、ヒヤリ・ハット、事故報告書の様式の改善も行った。資格取得に向けては、法人が費用の半額を負担して職員のスキルアップを応援している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 介護報酬の2.27%のダウンに伴う影響は、免れないと思われる。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 研修の案内を提示し、参加の声掛けをすることで、外部研修の参加率が上がり、職員又は職場のレベルアップにつながっている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 系列のグループホームの職員同士の交流は若干あるが、それ以外の同業者との交流は少ない。今後、研修などを通して交流を深めていきたい。	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 相談から利用に至るまで、本人及び家族から情報を得ている。利用開始時、本人との関わりを多く持ち、全てを受け止め、受け入れることで、相互の安心・信頼の関係を築けるよう努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 家族の希望や要望を十分に受けとめ、不安や困っている事等、安心して相談していただける雰囲気を作り、誠心誠意対応することで、信頼される関係が築けるよう努力している。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 「ホームの生活に慣れる」「安心・安全に穏やかに生活できる」「他者との良い人間関係づくり」等について、まず支援の強化を図り、緊急時の対応も含めて、何事に対しても24時間迅速に対応しており、するよう努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 利用者の残存能力を活かした支援をしている。洗濯物たみ・野菜の皮むき・そうじ・下膳・身辺処理・新聞折り・レク・体操・散歩・買い物等、生活リハビリを兼ねてスタッフと一緒にやっている。	
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 機会あるごとに(面会や行事・会議への参加・電話等)家族の願いや思いを受けとめ、介護支援に反映できるよう努めている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 親族や知人の来訪時には、たびたびの来訪を依頼したり、本人の希望を受けて、馴染みの場所に同行したりなど、支援に努めている。 (外部評価) 利用者の希望に応じて、職員が姉妹のお宅に出かけられるよう付き添っており、利用者が姉妹と一緒に過ごしたり、お仏壇に手を合わせられるよう支援している。調査訪問時には、数名ずつ散歩に出かけ、車いすを使用する方を他利用者が押してあげるような様子も見られた。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 食事・入浴・レク・散歩・お手伝い等、日常生活を共に過ごしていただく中で、利用者同士、利用者と職員に馴染みの関係が生まれ、気の合う利用者同志の関わり合いや支え合いが自然に出来上がっている。一人で静かに過ごすことを好む利用者は、スタッフが、関わりを多く持つように努めている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 入院治療のため、退所される場合が多いが、家族や関係機関に本人の経過について、聞いたり、退院後のことについて相談に乗ったり、支援したりしている。	
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 利用者ひとりひとりの暮らしの希望や思いを把握することに努めている。本人の理解力や判断力・家族の協力・経済状況等との関係も考慮しながら、願いの実現に向けて、前向きに取り組むよう努力している。 (外部評価) 入居時の情報収集は、センター方式の様式からピックアップしたアセスメントの様式を使用している。入居後知り得た情報は、心身の状況、日常生活の状況、豊かさ、ご本人の思い等の項目に沿ってまとめ、半年ごとに更新している。職員は、利用者の以前の暮らしや、現在の状態を把握することで、個々の思いに寄り添えるよう取り組んでいる。介護記録の書き方については、市の指導をもとに、管理者が注意点をまとめ、職員で統一できるよう研修を行った。	利用者が主体の暮らしを支援していけるよう、いろいろな場面を作って情報収集に工夫を重ねていかれてほしい。さらに、得た情報を支援につなげていくような取り組みもすすめてほしい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 本人、家族、前利用施設の関係者から過去の生活歴や病歴等、可能な範囲において、情報収集に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 介護記録簿(日々の過ごし方)、チェック表(食事、バイタル、水分、排便、服薬、入浴、特記事項等)医務ノート(受診、訪問診療、入退院、薬の処方等)個別に記録に残し、現状把握に努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>(自己評価) 本人・家族の願いをもとに、担当者・計画作成担当者・ケアマネ・管理者が介護計画の原案を作成し、家族に送付して意見を聞いている。この原案をもとに、カンファレンスを行い全職員で、検討をしている。一か月ごとにモニタリングをし、記録に残している。原則、半年ごとの見直しを行い、心身の状態に著しい変化があった利用者については、その都度見直しをしている。</p> <p>(外部評価) 介護計画は、ご家族に郵送しており、内容をじっくり見てもらえるようにしている。又、計画書内に、ご家族が記入する欄を設けて、意見や要望を書けるようにしているが、現在、記入される方は少ないようだ。ご家族の来訪時に、介護計画や介護記録を見てもらいながら意見や要望を聞くような時もある。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>(自己評価) 介護記録簿・チェック表・医務ノート・申し送りノート等を活用して、職員間で情報を共有しており、介護やプランに前向きに取り組んでいる。</p>	
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 体調不良時や検査のための受診、入退院時に家族に代わって付き添ったり、緊急時には24時間迅速な対応をしたり、その他衣替え・買い物・外出等、個々の希望に家族と相談しながら職員が代行することが多い。</p>	
29		<p>○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>(自己評価) 散歩の時、利用者を馴染みの関係ができた町内の方が、ホームの草花や野菜の栽培に協力して下さったり、自宅で育てた野菜を届けて下さったりして、利用者の理解と関係を深めていただいている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>(自己評価) 利用者や家族が希望する医療機関で受診ができるよう支援している。また、2週間に1回の訪問診療、緊急時にはすぐに、連絡が取れ、対応ができる体制が整っている。受診の必要がある時や健康に問題が生じた時は、家族に連絡・相談・報告をしており、受診時の付き添いも可能な限り職員と一緒にお願いしている。</p> <p>(外部評価) 受診は基本的にご家族が同行するようになっている。ご家族の都合によっては、職員が付き添い、薬の変更があった場合は、詳細をご家族に報告している。薬の効果や副作用等、看護師を中心に職員全員で情報を共有して知識を深めており、すべての職員が説明できるようにしている。調査訪問時には、昼食後、職員は、利用者の名前と服用する薬名を声に出して伝え、飲み終わるまで見守っていた。</p>	
31		<p>○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>(自己評価) 日常的に利用者の健康状態をホーム内の看護師に報告・相談し、必要に応じた対応をしている。</p>	
32		<p>○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>(自己評価) 長期入院により、重度化しないように、病院と密に連絡を取り合い、利用者の心身の状態を把握するようにしている。</p>	
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 「看取りに関する指針」「看取り介護についての同意書」にて、入所時に、本人・家族に説明し、同意を得ている。入院治療が必要となるまで、全介助状態になっても介護支援をしている。</p> <p>(外部評価) 入居時には、事業所の「看取りに関する指針」に沿って説明しており、「医療行為が発生した場合には退所になる」ことについても話している。ご家族やご本人の多くが、「最期までここで」と希望しているが、現在は、入院等で退居となる場合が多い。看取りを「こわい」と感じている職員もあり、管理者は「緊急時の体制」を整え、又、看護師資格を有する職員を中心に「重度化した場合の状態の変化について」勉強会等を行う等して、職員の不安軽減に取り組んでいる。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 急変時対応のマニュアルを作成している。具体的な場面での適切な対応を全職員ができるよう研修を積んでいきたい。AEDを設置し、講師を招き、使用方法について学んだ。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 消防訓練を年2回、緊急連絡網を使用して電話連絡による訓練を随時行い、防災に対する職員の意識向上に努めている。地域の方にも運営推進会議や消防訓練に参加していただき、協力を依頼している。	
			(外部評価) 8月には、運営推進会議と併せて、消防署の協力も得て火災想定避難訓練を実施した。職員は、通報訓練や利用者の避難誘導、消火訓練を行い、地域の方には利用者の見守り役をお願いした。消防署からは「初期消火」や「落ち着いて誘導すること」についてアドバイスがあった。職員ミーティング時には、避難訓練の反省会を行い、課題の解決に向けて話し合った。業者による防災設備の使用訓練やAED講習も年数回行っている。事業所では今後、地震やゲリラ豪雨に備えた訓練を実施し、又、運営推進会議時を捉えて、地域との協力体制についても働きかけていきたいと考えていた。	
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 笑顔で優しく親切に、言葉掛けや介護ができるよう、会議や申し送りノートを通して、繰り返し巻き返し全職員に伝え、介護職員力の向上を目指している。	
			(外部評価) 事業所の畑でサツマイモの収穫をした際、利用者が「芋づるは捨ててはだめ。戦時中は食べてたんよ」と言って、調理方法を教えてくださった。職員は、その通り調理して夕食の一品にして、利用者は「美味しい」「懐かしいね」とたいへん喜ばれたようだ。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 利用者が言いたいことを言える雰囲気づくりや、人間関係づくりに努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 利用者の自由を尊重し、好きな時に好きなことを好きなようにしていただくことを基本にしている。一日の中で一回は小集団の場で、スタッフや他の利用者との関わりや活動を楽しんでいただけるよう配慮している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) おしゃれを楽しまれる人、そうでない人、さまざまであり、起床時や外出の時、一緒に洋服を選んだり、化粧の支援をしたりしている。困難な利用者については、清潔な身だしなみを心がけている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 高齢者の好みや味に合わせ、旬の食材をふんだんに取り入れて、食事を提供している。普通食・さざみ食・ミキサー食を準備し、食事介助の対応もしている。利用者は、野菜の皮むきや下膳など関わっていただいている。食前には口腔体操を行い、昼食は職員と一緒にとっておられる。	
			(外部評価) 食材は、八百屋やスーパーで旬の野菜や魚、肉等を買って、調理専門の職員が、「週4日は魚料理、週3日は肉料理」を目安に食事を作っている。利用者も一緒に食材の買い物に出かけ、包丁を使って調理もしている。スプーンや器等、それぞれに合わせたものを使用し、なるべくご自分の力で食事ができるような支援に努めている。調査訪問日の昼食のなますには、冬場にみなで作った干し柿が入っており、職員は、「皆で作った干し柿を入れましたよ」と利用者に話していた。お誕生日には、個々に食べたいものの希望を聞き、ちらし寿司等を作ってお祝いしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事量・水分量を記録に残し、不足分を確認して主治医と相談しながら、栄養補助食品等で対応している。食事作り専門の職員を配置しており、栄養のバランスのとれた食事を提供することができている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後、利用者の実態に合わせて口腔ケアの介助や支援をしている。誤えん性肺炎の予防や清潔の保持に役立っており、利用者の健康維持にもつながっている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	<p>(自己評価)</p> <p>日中は、可能な限り水洗トイレを使用していただき、必要に応じて定時にトイレ誘導したり、見守り、一部介助、全介助などで対応し、失敗やおむつの使用を減らすよう努めている。夜間は、ポータブルトイレを使用している利用者もいる。</p> <p>(外部評価)</p> <p>できるだけトイレで排泄できるような支援に努力をしている。ご自宅と同じように、夜間のみ居室にポータブルトイレを置いて支援する場合もある。おやつには、毎日寒天ゼリーを添えるようにして便秘解消のために工夫している。</p>	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<p>(自己評価)</p> <p>食物繊維の多い旬の野菜や、寒天ゼリーを毎日献立して取り入れている。体操・散歩・歩行練習など日課として実施している。排便チェック表に記録を残し、必要に応じて薬での対応もしている。</p>	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	<p>(自己評価)</p> <p>利用者の心身の状態や、その日のスケジュール等をふまえて、入浴時間を決めており、個々に、1週間に2回以上入浴の支援をしている。要望があれば、臨機応変に対応している。重度の利用者には職員2名で介助している。</p> <p>(外部評価)</p> <p>午後から週2～3回を目安に入浴できるよう支援している。ほとんどの方は湯船で温まれるよう支援しているが、職員が二人介助でも難しい場合はシャワー浴で対応している。その日の状態によって入浴に気が向かないような方もあるが、トイレ使用后等に脱衣所までお連れすると、入浴に気が向くようなこともある。利用者によっては、自分専用のシャンプーを使用したり、入浴剤を入れてゆっくり楽しむことが好き方も支援している。</p>	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<p>(自己評価)</p> <p>日中の活動内容を増やし、昼夜逆転の防止に努めている。毎食後、居室での休息の時間を設け、心身の安定につなげている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬局から出される薬についての説明書によって、全職員が理解している。服薬支援は、利用者名・期日・朝昼夕を声に出して読みあげてから利用者に手渡し、飲み込みの確認をしている。症状の変化の有無にも留意し、素早く対応している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 行事や外出、買い物等の計画をし、楽しみや気分転換の一助としてゆけるよう努める。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 散歩を日課としており、1日に1度は戸外に出掛け地域のひととの交流を期待している。ドライブ・買い物・外食・親族宅訪問・選挙など利用者の希望に沿うよう努めている。	
			(外部評価) 日常的に、近くの川沿いを散歩しており、鯉にエサをやったり、鷺の飛来等も利用者の楽しみになっている。季節に応じて、初詣やお花見に出かけたり、利用者の「紅葉がきれいじゃろうな」という一言が出かけるきっかけになることもある。ファミレスで外食したり、カラオケがお好きな方は、近所にあるカラオケ喫茶で軽食を食べながら歌を楽しむ機会を作っている。洋服やおやつを買いに行く際には、ゆっくり選べるように時間に余裕を持って出かけるようにしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) お金は、事務所で保管・管理をしている。買い物をする時は、利用者自身がお金を使えるよう支援している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 携帯電話を所持している利用者があり、家族と自由に会話を楽しんでおられる。親族から電話があった時に、受話器を渡してお話をさせていただくこともあり、利用者本人の希望に沿って対応している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 玄関前や建物の側面では、プランターで四季折々の花を育てている。又、玄関内には、観葉植物や季節の行事に関連したグッズを置き、季節感を演出している。屋内は、清潔・整理整頓を心がけ、壁面には、行事の写真や利用者の作品を展示し、利用者が安全に気持ち良く過ごしていただけるよう、又職員が能率よく介護業務ができるよう努めている。</p> <p>(外部評価) 玄関前のプランターには季節に応じて花を植え、地域の方や利用者と一緒に手入れしている。散歩の行き帰りに、ひと休みできるようにテーブルセットも置いている。プランターでネギやサニーレタス、ゴーヤを植えて調理に使用したり、夏場は、居室の窓にゴーヤカーテンを作って日よけにしている。居間の壁面には鯉のぼりやアジサイの季節の貼り絵や外出や行事の写真を飾っている。台所は対面式で、居間を見渡せるようになっており、調査訪問時、職員はカウンターから見守りながら、会話や洗い物等していた。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 利用者の人間関係に配慮しながらテーブル席を決めている。共用空間の広さに限りがあるため、独りになったり、相性の合う利用者同士が思い思いに過ごしたりできる場の確保は難しい。</p>	
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 本人が、ご自宅で使用していた物(家具・寝具・衣類・TV・鏡台等)を持参され、居室内も好みのグッズや思い出の写真等で飾るなど、また、清潔・整理整頓の支援をして、よりよい居室になるよう努めている。</p> <p>(外部評価) お孫さんの写真や若い頃のご自分の写真を飾ったり、ご自分で折った折り紙作品を飾っている方もあった。中には、ご家族の名前を忘れないように書いて貼っている方もあった。ご自宅から持ち込んだ鏡台に化粧品を並べ、お化粧品する方もいる。テレビを置いている方は、自室でお好きな相撲中継をゆっくり見たり、ニュース等も見る。本やメガネを置く位置を決めている方もあり、職員は掃除時には気を付けている。洗濯物は、利用者と一緒にタンスにしまうようにしている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>(自己評価) 手すり・介護用具を活用して、又、動線上に物を置かないなど安全面への配慮もして、利用者の自立支援に向けての努力をしている。</p>	